

「神がわたしたちを愛して」

ヨハネの手紙一 第4章 7節～12節

説教 岡村 恒牧師

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」(10節)世界中で、繰り返し読まれ、語られてきた聖書の御言葉です。

「神は愛だからです。」(8節)という言葉は以前、「神は愛なり」と記され、最も古い日本語訳聖書では「神の御大切」とも訳されました。この一節は、神がどういうお方かということを一語で言い切っています。また、クリスマスの意味を明らかにする言葉でもあります。み子イエス・キリストがお生まれ下さったのはなぜか。神が愛だからです。

12節を見ると、わたしたちが互いに愛し合っ

て歩む時に、神が私たちといつも共に居て下さり、神の愛が私たちを一杯に満たし、あふれ出るようになる」と記されています。私たちの中から愛があふれ出て来るのではなく、神の愛が注ぎ入れられ、あふれ出るようになるのです。

「神は愛なり(文語訳聖書)」(8節)を日本語に翻訳しようとした宣教師ギョツラフは、漂流漁民の助けを得て《カミノゴタイセツ(神のご大切)》と訳しました。神が、私たちが大切だとお考え下さったので、私たちのことをいつもみ心

にかけ、文字通り、心血を注いで愛し抜いて下さいました。聖書のどこを開いても、この神の愛があふれています。

神は私たちが造り変えて、私たちが神を愛し、神を拝んで生きるようにして下さいます。クリスマス(Christ/mas)は「キリスト礼拝」という意味の言葉です。博士たちや羊飼いたちのように、すべての人が主イエス・キリストがどういうお方かを知って拝むことがクリスマスです。

「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。」(9節)神は、私たちが命を得て生きようになるために、独り子をお遣わしになりました。しかも、「わたしたちの罪を償ういけにえとして」(10節)お遣わしになったのです。本当の命と無関係であった私たちが、永遠の命を得るように、神は私たちが愛し抜いて、その愛を示して下さいました。

私たちでさえ、自分の思いを伝えるために、いろいろ思い悩み、努力します。神は、神ご自身にとって最も尊い、かけがえのないみ子を、クリスマスに失って下さいました。神のみ心と

ころから主イエスを手放して、人間として地上に送って下さったのです。しかも、十字架の上で血を流し、命を注ぎ出させるためにです。クリスマスに、神は宝を失い、引き替えに私たちを取り戻して下さいました。あの十字架の上で、主イエスが私たちの身代わりに絶望の叫びを上げて死なれたのは、神が、今ここにいる私たちを愛し、手に入れて下さるためでした。

「ここに愛があります。」(10節)他のどこを探しても見つけることはできないのです。他のどんなものを発見し、手に入れても、もし、み子イエス・キリストによって表された神の愛を知らないとしたら、一切はムダです。ただ神の愛を伝える聖書の御言葉からだけ、神の愛を知り、神の愛を受け取ることができる。だから聖書は、ここから私たちを送り出します。神がこれほどまでに私たちを愛し、今も愛し続けて下さるので、私たちからあふれ出る神の愛をお互いに注ぎ合って生きることができるのだ、と私たちに励ますのです。

キリストの使徒パウロは、自分自身のことを「土の器」と呼びました。(コリントの信徒への手紙二 4章7節)神の愛、まことの宝が入れられた器であることを喜び、誇りにしました。私たちは、ひとりひとりが神に愛されている者であることを知り、お互いに告げ知らせ合いながら生きるのです。あなたのために、主キリストは十字架に架かって死んで下さいました。あなたのために、主は死から引き上げられ、今も生きておられ、やがて再び来て下さいます。神があなたを愛しておられるからです。ただ神の愛だけが、あなたを癒し、赦し、生かすのです。

私たちは、神が愛して下さい自分自身を愛し、大切にします。そこから、神を愛し、隣りに仕えて歩みます。繰り返し、神が私たちひとりひとりをどれほど深く愛しておられるかを聞いて確認し、神の愛を味わいながら歩むのです。

神がみ子をこの世にお遣わしになった理由は一つです。神がこの世を愛し、あなたを愛しておられるからです。やがて終わりの日、主のご再臨(アドヴェント=到来)の日に、私たちはこの神の愛を目で見、手で触れ、全身全霊をもって味わうこととなります。神は私たちが神の愛によって造り変え、やがてキリストと同じ栄光の姿にまで変えて下さいます。

(記 岡村 恒)